

よつぎ なかつた

目次

新たな御代へ	3・2
第五十八回 若布献上	4
神宮神宝より紐解く	5
神宝館だより・みどころ	6
宗像大社歌会詠草	7
御造営奉賛者御芳名	7

よつぎ

世界規模で猛威を振

りまくコロナウイルス。報道等で知りえ

る限りでは、終息への道筋は未だ見え

てこない。現在、当社では疫病鎮静を

祈る祭祀を毎朝行っているが、疫病除

けなどに起因する祭祀が存在する▼夏

冬の大祓、道饗祭など日々の穢れ、悪い

物が入ってこないようになど、広義で災

いを払い除ける趣旨の祭祀が、当社を

はじめ全国各地で行われている。また、

疫病除けのイメージは薄いかも知れな

いが、博多の夏の風物詩、祇園山笠な

ども疫病除けの神事と言われる▼何故、

神社の祭りとしてこのような祭りが行

われているのか。祭りとして行われる

ようになる過程には諸説あるものの、

疫病等は、地震、雷、台風などの自然

災害と同じように、抗う手段の無い存

在であり、昔から恐ろしいものであった

という証でもある▼古来より日本人は

目に見えない敵、恐怖に対して、神に祈

りを捧げてきた。目に見えない迫りく

る病、死への恐怖などを落着けたの

か。先人たちは祭りに何を思い、何を

感じたのか。この機会に神社や、このよ

うな祭りの持つ意義を考えてたい。(鈴)



「立太子宣明の儀」で天皇后両陛下の前でお言葉を述べられる皇太子殿下(平成3年2月23日) 時事通信フォト

悠久の時をつなぐ

新たな御代へ

9

立皇嗣の礼

秋篠宮皇嗣殿下におかれましては、四月十九日「立皇嗣の礼」に臨まれる。

立皇嗣の礼は、午前十一時皇位継承第一位の皇嗣こうしにつかれたことを国の内外に示す「立皇嗣宣明の儀」、午後四時半天皇陛下に拝謁される「朝見の儀」がそれぞれ皇居宮殿・松の間で行われる。又、二十一日には祝宴にあたる「宮中饗宴の儀」が催され、これら三つの儀式は国事行為として執り行われる。当社においても十九日、午後一時より「立皇嗣の礼当日祭」を斎行する。

皇位は、男系によって継承されるのが我国の伝統であり、皇室典範第一条に「皇位は、皇統に属する男系の男子が、これを継承する」と明記されている。男系による継承とは、父方の血統を遡れば必ず皇統の祖である初代神武天皇に繋がることを意味し、それは今上陛下まで百二十六代に亘り守られてきた。

皇太子と皇嗣

皇嗣とは、皇位継承第一順位者を意味する。又、皇太子とは、皇位継承順位第一位の皇子(天皇の子)のことを指し「東宮」または「春宮」とも称した。皇位継承者に対する称号は時代により様々であるが、皇太子・皇嗣ともに「ヒツギノミコ」と呼称した。

明治二十二年に制定された旧皇室典範では第十五条に「儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス」とあり、現行の皇室典範第八条でも「皇嗣たる皇子を皇太子という。皇太子のないときは、皇嗣たる皇孫を皇太孫という」とある。又、第二条に定められた皇位継承順位は、
【一、皇長子 二、皇長孫 三、その他の皇長子の子孫 四、皇次子及び

その子孫 五、その他の皇子孫 六、皇兄弟及びその子孫 七、皇伯叔父及びその子孫】と規定されている。

平成二十九年六月に公布された「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」に基づき、平成三十一年四月三十日に先帝陛下が譲位され、令和元年五月一日に今上陛下が即位されたことに伴い、秋篠宮文仁親王殿下が皇位継承第一位となられたが、今上陛下の弟君である為、皇太子ではなく皇嗣の称号が用いられた。

皇嗣・皇太子の身位についてことを広く内外に宣言、公示する儀式が「立皇嗣(立太子)の礼」である。この礼にあたっては、東宮御相伝の護剣「壺切御剣」が天皇陛下から授受され、身位の印となっている。

昨今、皇統存続については様々議論がなされている。現在、皇位継承者は皇嗣殿下以外には、継承順位第二位の悠仁親王殿下、第三位の常陸宮正仁親王殿下のお二方のみであり皇統の存続が危惧されている。長い天皇の歴史の中で幾多の皇統継承の危機が存在したが、先人達はあらゆる知恵を絞り出し乗り越えてきた。それを踏まえ、安定した皇位継承の為に、私達に何ができるのか模索して行かなければならない。

立皇嗣の礼関係行事は左記の通り。

四月十五日	神宮神武天皇山陵昭和三皇山陵に勅使発遣の儀	宮殿
四月十九日	神宮に奉幣の儀	神宮
四月十九日	賢所皇靈殿神殿に親告の儀	宮中二殿
四月十九日	神武天皇山陵に奉幣の儀	神武天皇山陵
四月十九日	昭和三皇山陵に奉幣の儀	昭和三皇山陵
四月十九日	立皇嗣宣明の儀	宮殿
四月十九日	皇嗣に壺切御剣親授	宮殿
四月十九日	賢所皇靈殿神殿に調するの儀	宮中二殿
四月十九日	朝見の儀	宮殿
四月十九日	一般参賀	皇居等
四月二十一日	宮中饗宴の儀	宮殿
四月二十三日	神宮御参拝	神宮
四月二十七日	神武天皇山陵御参拝	神武天皇山陵
五月八日	昭和三皇山陵御参拝	昭和三皇山陵

※当初の予定は表の通りであるが一部変更が決まっています。

第58回 若布献上 玄界灘の天然若布を皇室へ献上

皇室に献上する若布は宗像市地島で採取さ

れる。特に献上用はワカメ漁の解禁前に新芽の部分刈り取り奉製されている。その後伝統的な技法を用いて特別に奉製された乾燥若布が神社に納められ、献上へ向けて準備が進められる。

皇室への献上は昭和三十八年に始まり、本年度で五十八回目。令和最初となる「若布献上の儀」は四月十三日・十四日の日程で皇室へ献上申し上げる。

地島のワカメ

ワカメ漁は毎年、三月～五月頃まで行われ、

今年も三月一日に解禁となった。玄界灘と響

灘の潮がぶつかり合う地島の海は肉厚で良好

なワカメが育つ。波や、風が強い日には漁がで

きず凧の日を待つて漁を行う。刈り取られた

若布は選別、湯通し、茎取り、塩蔵などの工

程を経て、塩ワカメとなる。

地島のワカメは「地島天然わかめ」としてブ

ランド化に取り組んでおり、漁解禁後二週間

以内に採れた「初採れわかめ」を厳選し販売

している。宗像市内の宗像観光おみやげ館、

街道の駅赤間館にて販売されている。

○宗像観光おみやげ館

宗像市江口一七二 ○九四〇・六二・二七二五

○街道の駅赤間館

宗像市赤間四・一八 ○九四〇・三五・四二二八



神宮神宝より 紐解く

18

元神宮式年造宮庁技師 采野 武朗

木工

漆工品等の造形の骨格である「木地拵」は良質の素材と、それらを高度な技術力で切組工作する熟練の木地師によって成り立っています。装束神宝の漆工木地は木工品として形状の歪みや狂いが将来においても生じない素材を必要とし、その為一般に建築材とされる檜より数等級上質の同材を使用します。その最上質天然檜の中で就中、糸柁材を厳選して使用することから、これら素材の調達については長野県木曽の産地現場に赴き、上質の天然檜を実際にこの目で適材を選定し入手致します。当時、この数年前から産地現場では公的な生産調整の動きもあり、年を追う毎の生産量の縮小傾向で檜材市場への供給も一時より極度に減少していました。その様な状況のもとでの当方が目指す高等級上質材の調達は

容易ではなく、生産者側からの同質材供給への抑制的な傾向も相まって当方への提示は、当初要求した仕様基準から大幅に下回る等級材でありました。その後の先方への御料の用途、仕様基準についての重ねての説明の結果、調達における検査を追う毎に生産者側の理解も深まり、やがて先方の尽力も得て装束神宝に相応しい最上質檜材の提示がありました。

この検査の様子は今シリーズ⑦号の口絵でも掲載しましたが、この様に選定し入手した檜材は神宝装束部に納入された後も、約三年間神宮内の収蔵施設内で丁寧な保存乾燥期間をおき、そして充分な養生を経て順次各調製者に交付致しました。交付を受けた各調製者は御料の担当に応じて大小様々な寸法の部材を長期に亘り堅牢な形態と成すべく、細部の切組に意を注ぎ「面仕様書」に則した形状に調製します。漆工品の木地となる場合は最終的にはその上に何層もの漆が塗り重ねられ、表面上は細部の切組は漆で覆われて外観から目視出来ませんが、覆われた内部に施された丹念な木地拵は御料全体の存在感を高め、力

強い形状となつて仕上げられます。

ここで装束神宝の木工品の中で今一つその重要な技術に楊筒の調製を挙げる事が出来ます。楊筒は「襪」、「髻結」、「履」などをその中に納める附属の筒ですが、素材には北海道産の白楊材を用います。精緻な三角形の稜線が筒の甲板(上面)と側板(側面)に整然と削り出されて、筒の外観に独特の緊張感を生み出しています。その三角の稜線は、特殊で高度な指物技術を要求し、その技を以て上質の仕上がりを見た時、清楚で気品に満ちた神の御料となります。



にしきのおんしろうず
錦 御 襪 が納められる御楊筒(皇大神宮御料)

神宮司庁提供

神宝館だより 36

八万点ノ国宝収蔵

鏡―鳥文縁方格規矩鏡―

方格規矩鏡とは、中央の半球状の突起(鈕)を囲む正方形(方格)と、その周りのT・L・V字形(規矩)を特徴とする鏡。規矩文のうち、L字はかねざし(規)、V字はコンパス(矩)を表している。中国の後漢時代(二五〜二〇〇年)に流行し、日本列島へも多数流入した。

本品は後漢時代の鏡を模した仿製鏡(国産鏡)で四〜五世紀のものともみられる。内区(鈕の周りの主体文様部分)の隙間をうめる文様は、後漢鏡にみえる四神をはじめとした禽獣文ではなく、渦で表現した虎や鳥の文様で、方格内と外区(縁沿いの部分)にも渦化した鳥の文様があり、内区の外周には断面が蒲鉾形の有節文と櫛歯文、さらに鋸歯文がめぐる。本鏡に表現された虎や鳥の渦文は原形をとどめていないが、かえって躍動的な印象となっており、趣深く感じられる。

沖ノ島出土鏡を代表する鏡のひとつである。本品の径は二七・二cm、沖ノ島出土鏡の中で最大の鏡で、極めて铸上がりが良い。古墳時代前期の仿製鏡においても最上級の品として知られている。当時、このような優れた大形の方格規矩鏡の出土は奈良盆地の大型前方後円墳などに限られており、それ以外の地域では実に珍しい。類似品に、奈良県新山古墳出土鏡、同県新沢五〇〇号墳出土鏡がある。

(福)



国宝 鳥文縁方格規矩鏡(17号遺跡出土)

みこころ

四月には入学式やお花

見などの行事がありますが、祝日の一つである「昭和の日」があります▼四月二十九日は昭和天皇の御誕生日であり、昭和の日は激動の日々を経て復興を遂げた昭和の時代を顧み国の将来に思いをいたすことを趣旨としています▼昭和は六十二年間続きました▼本今のまでの元号の中で最も長く続いた時代です。この間に高度経済成長を遂げるなど日本にとってとても重要な時期だったように思えます▼元号が令和に変わり一年が経とうとしています。元号がそのまま名称になっている祝日は昭和の日しかありません。二十九日には時代を振り返りながらこれからの日本について考える機会を設けてはいかがでしょうか。

(鮎)

第704回

宗像大社歌会詠草

■大西晶子選 ■毎月25日メ切

冬空の藍は透明限りなく孫ら最後のセンター試験

早川 祥三

お孫さんが最後のセンター試験を受ける作者。二句切れにし三句以下（わが孫が最後のセンター試験受ける日」と、上下の句を関連付けては。

しぐれ去りまたしぐれきて直土のかわくひまなきひと日なりけり

佐々木和彦

（しぐれ）の繰り返しとそれを受ける下の句の「ひ」「り」が柔らかく、全体に言葉の響きが美しい。

みの虫が白壁に添ふて巢つくり満開の梅乱れて咲きぬ

秋吉 嘉範

季節の変わり目を冬の養虫と春の梅の花で表現した意欲的な歌。二、三句を（付く白壁を背景に）」と。

時がきて「医師、井戸を掘る」という民謡が生まれないかなあアフガニスタン 山崎 公俊

アフガニスタンに井戸を掘り人々の暮らしを豊かにしようと努力された中村哲氏への挽歌。ゆったりとした詠みぶりに希望を感じる。

地下鉄の車椅子用のスペースは通勤姿の人らで満てり

萩原 勉

通勤時間帯の地下鉄か。車いす用のスペースも使う人が無ければ立つ人で埋まる、殺伐とした空気を感じた作者だろう。

ちびトカゲ足元横切り物陰へ裏の庭にも春あふれ出す

本田エリナ

冬眠から覚め庭に姿をあらわした小さなトカゲに春を感じた作者。結句の（春あふれ出す）が魅力的。

思ひ出し笑いのような暖かさ水辺の鴉は水はね散らす

吉崎美沙子

春の初めの三寒四温の日々、ひどく寒い日の後の暖かい一日だろう。（思ひ出し笑いのような）の喩が効いている。

◆選者詠

夕つ日に透ける楓と梅の葉のいたくうつくしきくら散るころ
 苺食むをさなをあてなるものとせし清少納言に子なきをかなしむ

第675回 俳句

立春や朝日の渡る中津宮

早川 祥三

御造宮奉賛者御芳名

（令和二年一月）
 （順不同・敬称略）

30,000円	知多郡	伊藤 覚海	宗像市	恒松 幸子
	広島市	及川 敬	横浜市	中川 匡道
10,000円	大田区	富沢 宏次	横浜市	田村 リサ
	北九州市	吉本 幸一	横浜市	森 恵美子
	中野区	山口 昭久	三、0000円	大田市
	阪南市	山中富士夫	富山市	舟橋 瑞郎
5,0000円	朝倉市	矢野 宙之	福岡市	大石 希美
	江戸川区	豊島 秀一	二、0000円	赤磐市
	鎌倉市	松田 真一	北葛城郡	小坂 篤司
	神戸市	山崎 裕香	佐賀市	谷本 憲治
	札幌市	久下 陽子	世田谷区	香月 慶子
	豊島区	森田 靖	高松市	佐々木笑美子
	那覇市	宮平 保幸	福岡市	丸尾 一幸
			福岡市	大久保証幸
				松川祐喜子

4月まつりごよみ

1日	春季大祭	午前11時
2日	高宮祭、第二宮第三宮祭 宗像護国神社春季大祭 春季総社祭	午前10時 午前11時
7日	沖津宮春季大祭 於=沖津宮遙拝所 中津宮春季大祭 於=中津宮	午前9時 午前11時
15日	総社月次祭 引続き 高宮祭、第二宮第三宮祭	午前11時
19日	立皇嗣の礼当日祭	午後1時
29日	昭和祭	午前11時

編集後記

「乱横断」という言葉を御存知

だろうか▼信号無視や横断歩道の無い場所を歩行者が渡る行為のことである▼昨年十一月、北九州市で高齢の男性とバイクが衝突する事故が起きた。信号無視をして横断歩道付近の道路を渡った際に、信号に従い走行していたバイクと接触したのである。そして歩行者の男性は重過失傷害容疑で、バイクの運転手は自動車運転処罰法違反(過失傷害)容疑で書類送検された▼歩行中に法令違反をしても、車のような減点は無いが、「交通弱者」と呼ばれる歩行者側にも大きな事故を起こす可能性があることを理解すること、安全な交通社会になるのである▼そして、私たちは交通ルールに守られているということ、忘れてはならない▼四月は新しい生活の始まりの月である。あらゆる人の行き通いが安全であることは当社の願いでもある。(黒)